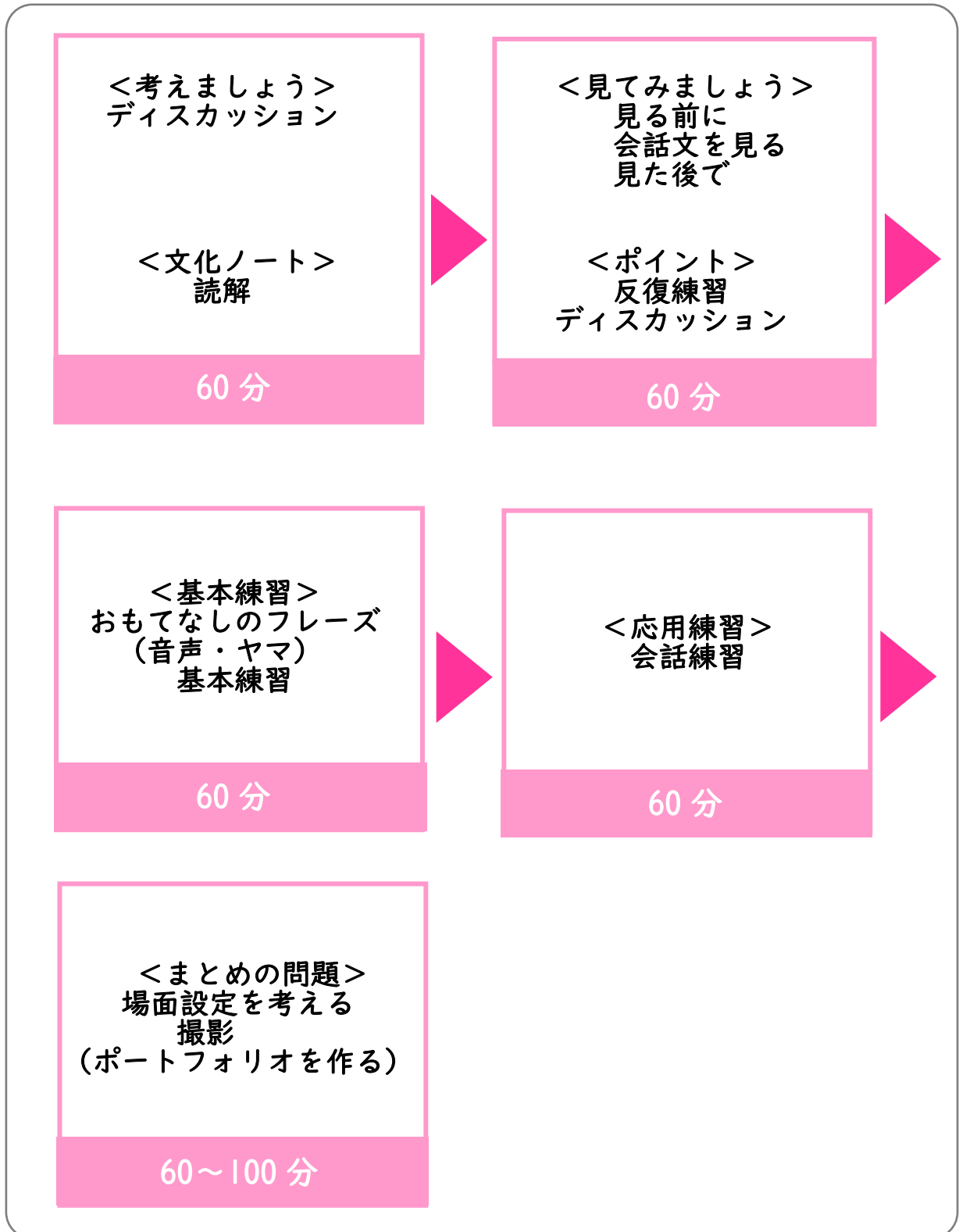


II. 全ての課に共通する指導の流れとポイント

◆授業の流れ (N3レベル~)



◆課のはじめ：

ここでは、課のテーマ、セクションのテーマを学習者と確認しましょう。セクション毎に、Can-do（到達目標）が2つあります。何ができるようになるのかが明確に示し、学習者に意識してもらうことが大切です。課の最後には、Can-do チェックをする箇所がありますので、指導者もこれらの目標を意識しながら授業を進めましょう。

◆テーマ：

各セクションのテーマについての説明には翻訳がついています。日本語母語話者や日本語上級レベルであれば翻訳なしで読み、このセクションはどのような心を学ぶのか、イメージできるようにします。無理に翻訳なしで読み、理解してもらう必要はありません。セクションが終わる頃に、理解できるようになれば結構です。授業が始まる前に学習者に読んでもらってください。授業で簡単に何を書いてあったか、確認するといいでしょう。時間をかける必要はありません。

◆〈考えましょう〉

ここは、課のテーマや見本会話〈見てみましょう〉を学ぶ上で、ポイントになる点や、理解を深めてほしいことなどが含まれた設問になっています。様々な国籍の学生がいる場合は、なるべく異なる国籍の学生同士が話せるようにしましょう。異文化理解にもつながります。

〈考えましょう〉では、考えてもらうことが大切ですので学習者の発言をすべて受け止め、「正しい」、「間違えている」などと指摘しないようにしましょう。価値観はそれぞれ異なります。実際に、お客さまの背景も様々ですので、それぞれに考えは異なるということに気づいてもらうことも重要です。〈考えましょう〉で何を考えてほしいのか、どのようにディスカッションを導いていくのかなどのポイントは、各セクションによって異なりますので、個別の課のページを参照してください。

◆〈文化ノート〉

異文化理解、異文化コミュニケーション、接遇マナーなど、おもてなし場面で役立つ知識について書かれています。また、現場で役立つ語彙も含まれていますので、ぜひ覚えるようにしましょう。また、マナーなど実践を伴うものは、実際

に学習者に身につけてもらうため、体を動かして練習しましょう。現場では、ことばだけではなく、動作も一緒に行うことが必要です。そのために、ここでしっかりと学習者に理解をしてもらい、できるようになることが大切です。また、文化に関する内容であれば、学習者の出身国と比較することもいいでしょう。学習者同士の協働を促しましょう。

ここは、読解教材としても使用することができます。また、語彙は接客ビジネスで必要だと思われる語彙を選んでいきますので、語彙クイズなどをするのもいいと思います。

◆<見てみましょう>

会話文を見る前に

会話を見る前に学習者に考えてもらうようにしましょう。各課のシート①をコピーして学習者同士で考えさせましょう。正解はビデオを見たあとで振り返りましょう。この場面ではどのような言い方をするのか、この言い方はどのような場面で使われるのか、など具体的に考えさせることが大切です。意味機能について考えさせて（気づかせて）もいいでしょう。この時、協働学習をしてもいいと思います。

会話文を見てみましょう

まず、ゴールとなるモデル文をしっかり把握するために全体を見ましょう。それから細く見ていく時に、発音に気をつけ、反復練習をします。

- ① 1度全体を見る：ゴールとなるモデル文をしっかり把握する。
- ② 会話を細かく切って意味の確認と発音練習しながらシート①を振り返る。
- ③ 最後にもう1度見る

会話文を見た後で

会話文を見た後は、どんな場面で何を言っていたか、その表現はと言う時に使用するのかなど、学習者に確認してください。ここで十分な気づきがあることが重要です。意味機能の確認もするといいでしょう。この時、確認事項など協働学習をしてもいいと思います。また、各課のシート②で考えさせましょう。

*<見てみましょう>は以降、モデル会話と呼びますが、授業の始まる前に必ず見せてから進めてください。毎回反復練習をするのもいいと思います。

◆<ポイント>

上記の活動で十分に考えさせた（気づかせた）あと、ポイントに入ります。ポイントは答え合わせのように指導してください。また、日本語レベルの低い学生に対してはわかりやすく補足しながらの指導が必要です。ポイントの箇所では、反復練習も必要です。

◆<基本練習>

この基本練習には、「おもてなしのフレーズ」、文型練習、セクションで学ぶテーマについての練習、意味機能についての練習などが含まれています。まず、モデル会話を見せてから授業を始めます。

①「おもてなしのフレーズ」

- A. 答えを考えさせる
- B. 音声を聞かせながらヤマを見せる
- C. きれいな発音で反復練習
- D. 立たせて暗唱
- E. おじぎなどが必要な場合は、動作もつけて練習
- F. 会話文の中でどのように使用されているか会話文を見せながら確認

例)

いらっしゃいませ

お待ちいたしました

ご案内いたします

お決まりになりましたら、お呼びください

②文型練習

全ての文型練習には、3～6問ほどの代入練習があります。本を見ないでできるようになるまで口頭練習が必要です。ペアアイコンがある箇所は、学生同士で練習します。また、紙面の関係上、全てのポイントの文法項目が入っていない

るわけではありませんので、必要であれば補足の問題を追加してください。
代入練習はまず、拡張練習をした後で、意味機能のパターンを板書するなどして見せながらペアで練習してもらいましょう。

③ セクションで学ぶテーマ

セクションによって異なりますが、課によっては、おじぎなど動作を加えた練習やテーマについて話し合う問題があります。

④ 意味機能の練習

<ポイント>を振り返りながら、練習していく必要があります。口頭練習も加えるといいでしょう。よく学習者に考えさせ、気づかせることが重要です。

◆ <応用練習>

応用練習は、会話文全体の代入練習です。次のステップで進めます。

- ① まず、会話文をもう一度、見せてください。学生たちにこれからするモデルを見せることが必要です。そして反復練習をします。
- ② 意味機能を見ながら練習しましょう。ここは、なるべく暗記に頼るのではなく、意味機能を見て言えるようになるまで練習するといいいでしょう。
- ③ 代入練習はまず、意味機能を見せながらペアで練習してもらいましょう。
- ④ 最後の問題（自由に考えて、話しましょう）は、ペアになって会話文を作らせましょう。その時、意味機能が役に立ちます。また、別冊の模範解答に確認チェックがありますので、授業の最後にそれらができるようになったか確認させてください。この段階で実際に動きながら練習しましょう。

◆ <まとめ問題>

まとめ問題は「セクション1」と「セクション2」の総復習です。まず、それぞれのセクションの会話文を見せるところから授業を始めてください。

- ① 「おもてなしのフレーズ」：どのような場面で使用するのか確認する箇所です。おもてなしのフレーズの総仕上げの段階ですので、きれいな発音で言えるように練習しましょう。この段階では、教師がどのような場面で使用するのか言った後で、すぐ答えられるようにしておくといいいでしょう。
- ② その課の重要な文法項目や動作、意味機能の練習：ペアアイコンのある箇所

は学生同士で練習してください。きちんと内容が理解されている段階で、次の会話の練習に入ってください。

- ③会話のヒント：ここでは会話のヒントを見ながら学生が自由に会話文を考える箇所です。学習者によってモデル会話でしか言えない学生もいると思いますが、なるべく自由に会話を考えさせてください。ただし、接客場面で使用してはならない文言などがあった場合には指導してください。
- ④ポートフォリオの作成：会話文をしっかり練習させ、会話文のポートフォリオを作成します。この段階では、動作をつけて場面にあった会話ができるようになることを目指します。ここは40分ぐらい時間がかかってしまうかもしれません。このポートフォリオを各課の評価に使用することもできます。ポートフォリオ作成は授業時間短縮のため課題にしてもいいでしょう。
- ⑤「「考えましょう」に戻って、もう一度考えましょう。」では、授業前と授業前後の理解の変化に気づかせることが重要です。
- ⑥Can-do チェックで、この課の到達目標ができるようになったか、確認することが重要です。もっとも重要なことは学生がこの課を通してどのような気づきがあったかです。時間があれば、この課で学んだことを振り返る振り返りシートを準備してもいいでしょう。